

都弱視研

東京都弱視教育研究会
世田谷区桜丘5-19-1
発行人 後藤真司
印刷 依田印刷株
第51巻 1号発行 R3.7.1

令和3年度の東京都弱視教育研究会の活動

東京都弱視教育研究会 会長 後藤真司
世田谷区立笹原小学校 校長

東京都弱視教育研究会（以下「都弱視研」）は、都立盲学校4校（文京、葛飾、八王子、久我山青光学園）、筑波大学附属視覚特別支援学校、そして区市立小・中学校の弱視通級指導学級12校（小学校9校、中学校3校）の相互の連携を図るとともに、広く弱視教育の研究と普及を推進することを目的として会を運営しています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため東京都にまん延防止等重点措置が適用される中、Web会議システムを活用した研究総会を4月23日に開催し、今年度の研究活動がスタートしました。事業計画では、年間11回の研究全体会（授業研究、公開授業、講演会を含む）を計画しました。先行きの見通せない状況も続いていることと、昨年度、試行錯誤しながらオンラインを活用した運営方法も取り入れ有効性を確認できたことから、集合形式及びオンライン活用での研究会開催など、弾力的に研究活動を展開していきたいと考えています。

研究総会に続いて、記念講演を開催し、国立成育医療研究センター 感覚器・形態外科部 眼科 診療部長 仁科幸子先生に「弱視の子どもの主な疾患と配慮について」という演題でお話をいただきました。疾患への配慮とともに、デジタルデバイスが普及し子どもたちの日常生活に根付きつつある中で、教育現場では保有視機能を守るために、家庭に向けてデジタルデバイス

との上手な付き合い方を発信したり、定期的に検査を行ったりしながら、早期発見や早期治療に繋げることが大切であると教えていただきました。医療機関と教育現場と家庭との更なる連携の重要性を感じています。

今年度、都弱視研では、研究主題を「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」、副主題を「発達段階に応じた自己理解の指導の在り方」としました。子どもが自己理解を深める手立てや、将来に向けて自己実現を図るための援助要請への支援などについて、全体での研究会とブロック別での研究会を開催し、会員相互の連携・協働を図り、より実践的な研究に繋げていきたいと考えています。

また、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から新学習指導要領が全面実施となり、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が求められています。さらにGIGAスクール構想に基づく一人1台のタブレット型情報端末の活用も始まりました。個別最適な学習を実現する有効的な手段とするために、本研究会での研究推進と会員相互の連携・情報共有の充実が、より一層求められます。

児童・生徒の個々の状況や課題を見失わず、これから社会を生き抜く力を身に付けさせることを目標に研究を積み重ねてまいりますので、関係諸機関の皆様のご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。

令和3年度 研究総会 記念講演（4月23日） 「弱視の子どもの主な疾患と配慮について」

講師 国立成育医療研究センター 眼科診療部長 仁科 幸子 先生

(オンラインでの実施)

<眼の仕組み>

子どもの眼は、産まれた直後は器官ができているだけでほとんど機能していません。視力は、外界からの適切な刺激を受けてのびていきます。

例えば、新生児の視力は0.01から0.02ほどで、3歳児健診でようやく0.5くらいになります。視力の発達期において視力はぐんぐんのびていますが、一方で視覚刺激が遮断されたり、原因となる病気があつたりすると、「弱視」となって視力がのびなくなってしまいます。眼鏡をかけたら見えるのですよね、と聞かれることもありますが、眼鏡をかけても見えない“視覚脳の発育不全”が弱視です。

<注意したい子どもの様子>

◎目の揺れ（眼振）

目が揺れている場合、両目とも弱視になっている疑いがあります。年齢が幼いほど視力の成長に影響を受けますので、早期に原因を調べて治療する必要があります。

◎目の寄り（斜視）

目や脳の疾患が潜んでいる可能性があります。とくに片目を隠すと非常に嫌がってしまう場合、もう片方の目に病気があることが多いです。

◎まぶしさ（羞明）

まぶしそうな様子が見られる場合、早期治療が必要な疾患が潜んでいることがあります（緑内障や無虹彩等）。早期発見・治療ができるだけ視力をのばせるように、涙が出ている、黒目が大きい、目の奥が白く見える等の症状が見られたら、できるだけ早く眼科を受診してください。

<弱視児の疾患>

弱視児の原因となる疾患は、先天的な素因で0歳代に発症するものが多くを占めています。



出生前

【胎生3～8週】 器官形成期に、何らかの遺伝子変化、子宮内感染や薬物・アルコール等の影響を受けると、高度な眼の先天異常が起こります。

【胎生3週目】 眼の原基が発生する時期です。無眼球や小眼球が起こります。

【胎生5週目】 胎生裂（眼組織のつなぎ目）がうまく閉じないと、脈絡膜や網膜の一部が欠損する疾患（コロボーマ）が起こります。

【胎生8週目以降】 眼の組織が分化・成熟していく過程に生じる疾患の一部を紹介します。

硝子体過形成遺残

硝子体内の血管が遺残して混濁しているため、視覚遮断により弱視になる可能性があります。網膜剥離にもなりやすいので注意が必要です。

視神経低形成

視神経が生まれつき細い状態です。とくに両眼の場合、神経症状や、成長ホルモンが出にくいなど下垂体の異常症状を合併する可能性があります。

黄斑低形成

黄斑部（網膜の中心部）には、刺激を受け取る視細胞のうち、形や色を細かく見るための錐体細胞が集まっています。低形成では細胞の集まる密度が低く、視力がでにくい状態になっています。眼振を合併することが多いです。

虹彩低形成（無虹彩）

多くは黄斑低形成を伴っており、まぶしさへの配慮や低視力のサポートに加えて、緑内障の合併を見逃さないように眼科への定期的な通院で確認することが必要です。

白子症

脈絡膜や虹彩の色素ができておらず、強いまぶしさがあります。黄斑低形成を伴つており、低視力で眼振がみられます。

先天緑内障

隅角の形成異常により眼圧が高くなり、視神経障害を起こす疾患です。黒目が濁って拡大し、強いまぶしさや流涙を生じます。すぐに手術が必要です。

家族性滲出性硝子体網膜症

網膜血管の発育不全をきたす遺伝性の疾患です。程度は様々で、生まれたときから網膜剥離が見られたり、小児期に進行したりすることも多いので、見逃さないよう定期的な眼底検査が必要です。遺伝性のため兄弟の眼底検査も勧めます。

出生後

未熟児網膜症

未発達な網膜血管に対し、血管内皮増殖因子が過度に放出されると、異常な新生血管が増生して、進行すると網膜剥離を起こし失明する疾患です。鎮静化したあとも定期検査が必要です。

<医療・教育現場の連携>

弱視児は、視覚だけでなく神経系や聴覚にも疾患を併せもつケースが考えられます。小児科や耳鼻科と連携をしながら子どもの状態を的確につかみ、治療を行っています。

また、眼疾患の起こった時期や程度によって視機能や症状は大きく異なります。子どもの状況と必要な配慮を詳しく知る眼科医が、教育機関へ情報提供を行うことが大切です。

近年は、通常の学級に在籍する弱視児が特別支援学級・学校とどのように連携するか支援することを一つのミッションと考えています。少し見えにくさがある子どもが埋もれてしまっている現状を学校の先生たちと共に認識し、対応を考えていきたいと思います。

<事例>アイサポート教育相談(院内相談)

都立久我山青光学園のコーディネーターが月1回程度来院し、教育相談を行っています。担当医から学校の先生へ、子どもの眼疾患・視機能障害について直接伝えることができます。

<弱視児への配慮>

弱視児の残存視機能の保持と活用、晚期合併症の防止と早期発見が非常に大切です。特に、未熟児網膜症や緑内障、家族性滲出性硝子体網膜症は学校入学後に網膜剥離になる場合があるので注意が必要です。目押しや打撲を防ぐために保護眼鏡をかけたり、運動時に注意を払ったり、眼疾患に応じた配慮が不可欠になります。

また、視覚の発達は感受性期間に限られていることを踏まえて、眼鏡の必要性を周囲が理解し、終日装用を促すことが必要です。弱視児の保有視機能をのばすために、保険や手帳の補助を活用しながら、定期検査・再処方を受け、子どもの成長に対応していきましょう。

<子どもの視覚を守るために>

2015年頃からスマートフォンの急速な普及に伴い、内斜視になるお子さんが増えています。日本小児眼科学会より、コロナ禍でぜひ眼のことについてほしいという思いから下記の提言を出しました。

獲得した視覚はずっと失わないでいてほしいというのが私の願いです。

①デジタルデバイスとの付き合い方

25cm以上離れて、30分までの利用に。

②乳幼児健診は必ず受けて

目の病気は早く見つけないと手遅れになります。気になる症状があれば、眼科を受診しましょう。

③眼鏡は治療のための大切な医療器具

眼科で精密検査を受けて処方を受けましょう。

(記録 足立小学校 神保 有花)

【令和3年度 東京都弱視教育研究会 役員一覧】

役 職	氏 名	所 属 校
会 長	後 藤 真 司	世田谷区立笹原小学校 (長)
副 会 長	田 島 忍	東京都立葛飾盲学校 (長)
副 会 長	望 月 伸 悟	町田市立本町田東小学校 (長)
監 査	永 浜 幹 朗	江戸川区立第四葛西小学校 (長)
監 査	山 岸 健	江戸川区立松江第一中学校 (長)
事務局長	北 川 由 美	世田谷区立笹原小学校
会 計	近 藤 修 安	町田市立本町田東小学校

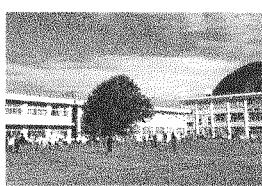
【令和3年度 東京都弱視教育研究会 事業計画】

月	項 目 (会 場)
4	第1回研究全体会 (オンライン) 令和2年度 事業報告・令和3年度 事業計画 等 研究総会 記念講演 講師：国立成育医療研究センター 仁科 幸子先生 (オンライン)
5	第2回研究全体会 3分科会年間計画 (オンライン)
6	第3回研究全体会 資料提供 (小岩小学校)・専門性向上研修・ブロック別研究会 (オンライン)
7	第4回研究全体会 研究授業(本町田東小学校) (オンライン) 講師：広島大学准教授 氏間 和仁先生 *都教委との意見交換会
8	第5回研究全体会 見学会 (慶應義塾大学 障害学習支援室) *通級指導学級三者連合協議会 (都難言協・都情研・都弱視研) *都立盲学校 夏季専門研修 8/4~8/6 (オンライン)
9	第6回研究全体会 資料提供(中村西小学校)・専門性向上研修 (中村西小学校)
10	ブロック別研究会 (文京盲学校)
11	第7回研究全体会 研究授業 (開進第三中学校) 講師：広島大学准教授 氏間 和仁先生
12	第8回研究全体会 公開授業 (都立八王子盲学校) *上野Zooスクール
1	第9回研究全体会 (文京盲学校) 講演会 講師：愛知教育大学准教授 相羽 大輔先生
2	第10回研究全体会 (笹原小学校) 年度末反省
3	第11回研究全体会 (笹原小学校) 新年度事業計画・研究テーマ

アンテナ No.73

新島村立新島小学校

本校の弱視通級指導学級は令和2年度に開設されました。島しょ地区における弱視通級指導学級の開設にあたり、多くの方にご協力をいただきました。



開設して2年目となるこの学級には、自校通級の児童が在籍しています。初年度には全校児童に向けて「弱視」の友達が安全に学校生活を送るための理解と協力について話をしました。今では異学年合同の「たてわり班遊び」でも楽しく遊ぶことができています。

また、弱視学級で初めて使い始めた、拡大読書器や単眼鏡、ルーペや書見台にも慣れ、必要に応じて自分で使えるようになってきました。今年度は外での活動も増やして、新島の季節の花や生き物とも触れ合いたいと思っています。（鈴木 千夏）

